

実践レポート

参加型で学ぶ開発教育・実践レポート

—「ふりかえり」で学びを深める—

小林 香保里

要 旨

本稿は、授業のふりかえり作業を通して、授業改善（教授法、動機づけ、ラーニングコミュニティの構築）のための学びや気づきをまとめた実践レポートである。実践コースは全学生対象の Liberal Arts Seminar の1つで「Development Education through Active Learning - 参加型で学ぶ開発教育」（英語で実施）である。社会状況の変化により、Web 授業が導入された 2020 年度、Web と対面授業が交錯した 2021 年度のいずれも秋学期に取り組んだ。「レポートや Web 上の授業アンケート」による学生のふりかえり活動の内容と「授業ふりかえり項目」や「授業ノート」による教師自身の授業ふりかえりとを合わせて記した。本コースの受講生の到達目標の達成度の評価や多様な授業形態への対応策など、ふりかえり作業を通して気づいた授業改善の方向性を議論する。

キーワード

ふりかえり、動機づけ、ラーニングコミュニティ、アクティブ・ラーニング、協同学習

1 はじめに

2020 年度に新任教員対象 FD セミナーを受講後、授業の「ふりかえり」の大切さを再認識した。これまでも授業をふりかえる試みは行ってきたが、セメスターが進むにつれ、忙しさを理由におろそかになったり、担当授業の初年度は実践しても、次年度以降はふりかえる頻度も減少していった。FD セミナーで、実際に「ふりかえり」に本格的に取り組む機会を得、今まで何気なくふりかえていたのとは異なり、項目や方法についてしっかりと着目することを学んだ。また自主的に各種セミナー（開発教育協会、参加型評価センター）を受講し、自身の「ふりかえり」への意識が高まった。折しも 2020 年度は社会状況の変化により、Web 授業が導入された。毎回手探りで授業を実施していた私にとって、ふりかえらざるを得ない事態でもあった。授業の「ふりかえり」があったからこそ、この変化に対応できたと言っても過言ではないだろう。加えて 2021 年度は、Web から対面授業への切替えや Web と対面授業の混合など、更に新しい授業形態が求められ「ふりかえり」の実践を継続することとなった。本稿は、2020 年度、2021 年度の「ふ

りかえり」を通して、授業改善（教授法、動機づけ、ラーニングコミュニティの構築）のための学びや気づきをまとめた実践レポートである。まさに「ふりかえり」をふりかえり、今後はどう活かしていけるかを議論したい。

2 実践の概要

2.1 コースの概要

本コースは教養教育センターにより開講されている全学生（グローバル教養学部を除く）を対象に配当された教養科目 B 群に属する Liberal Arts Seminar である。教養教育センターの開講方針の下、各教員の専門分野を日本語以外の言語で学ぶ。教養教育センターによって示された開講方針と本コースのシラバスの概要を下記に示す。

教養教育センター開講方針より

科目概要：この科目は担当教員が持つ専門分野を trigger に、履修者の関心や専攻の文脈でリサーチ、ディスカッション、プレゼンテーションをする小集団授業である。こうした内容を日本語以外のターゲット言語（本コースは英語）で実施する。単に知識を深めるだけでなく、多様な背景を持った学生同士の交流からも多くを学ぶ。

到達目標：

1. 自分の領域や専門を超え、複眼的な視点で物事を母語以外の言語である程度理解し、さらにその言語を用いて自信を持って発信することができる。
2. 母語以外の言語で、主体的に学ぶ経験をすると共に、主体的に学ぶ方法を身につける。

本コースシラバスより

コース概要：実践の場となったのは上記科目、Liberal Arts Seminar の1つで、「Development Education through Active Learning - 参加型で学ぶ開発教育」である。2020年度、2021年度に渡り取り組んだ。このコースでは、導入レベルの開発教育の内容を参加型で、学部の垣根を越えた多様な集団で学習する形態を取る。開発教育は、世界のさまざまな問題の解決に向けて、それらが起きる社会構造を理解し、自分とのつながりを考えながら、一人ひとりが参加し、地球市民として協力し行動する態度を養うことを目的としている。開発教育の参加型の授業では、単なる知識の注入ではなく、シミュレーション、ロールプレイ、フォトランゲージ、ディスカッション、プレゼンテーションなどの活動を中心とした協同作業を通じて、学習者自身が能動的に問題の本質に気づき、考えを深めていくことを目指す。このコースでは、多文化理解、環境、教育、フェアトレードの4つのトピックを主に扱い、学びを通して世界と日常を結びつけて考え意見交換し、地球市民としての第一歩を踏み出すことを目標とする。

本コースでは、コミュニケーションを重視している。コミュニケーションによって知識を得、理解や考えを深めることが可能である。また議論することで、自分取るべき行動について、より実効性の高いものにできる。更に、Liberal Arts Seminar の要である外国語（本コースは英語）での発信や主体的に学ぶ力を身につけるということを目指し、次のように受講生の到達目標を設定した。

受講生の到達目標

(2020年度) 1. (技能) クリティカルリテラシー(相手の主張を理解し、それに対する自分の意見を持ち、意思伝達できる)を獲得する。2. (思考・判断) 持続可能な社会のためにグローバルな視野を持つことができる。3. (意欲・態度) 持続可能な社会のために自分が取るべき行動について議論できる。
 (2021年度) 1. (技能) クリティカルリテラシー(相手の主張を理解し、それに対する自分の意見を持ち、意思伝達できる力)を獲得する。2. (思考・判断) 持続可能な社会のために授業で紹介する事象や関連事項について調査し、まとめ、自分の意見を交えて発表することができる。(2020年度新任教員対象FDセミナー受講後、2021年度では改訂。詳細については後述する。) 3. (意欲・態度) 持続可能な社会のために自分が取るべき行動について議論できる。

コースの基本情報

開講時期：秋学期で週1回(水曜日・5時限目)、計15回の授業
 教材： 自作の配布資料やNGOによる教材を使用
 受講生： (2020年度) 受講者数7名で、1回生：4名、2回生：1名、4回生：2名
 専攻は国際関係学部：4名、文学部：1名、経済学部：1名、情報理工学部：1名
 全員国内学生
 (2021年度) 受講者数9名で、1回生：5名、2回生：3名、3回生：1名 専攻は国際関係学部：4名、文学部：4名、情報理工学部：1名 国内学生8名、国際学生1名
 授業形態：(2020年度) 全回 Web 授業 (Zoomによるライブ配信)
 (2021年度) 2回 Web 授業 (Zoomによるライブ配信)、13回対面授業
 成績評価方法：平常点評価100%
 (内訳) 授業参加 - 30%、プレゼンテーション - 20%、レポート(英語) - 50%(10% x 5)

2.2 受講生に求める課外学習活動

2週間に一度、主に扱う大きなトピック(多文化理解、環境、教育、フェアトレード)の学習後に英語でレポートを書くことを課した。内容は2つで、1つ目は、授業をふりかえり、内容理解の確認やそれについての意見を求めた。そして、それを2つ目の項目である自分の興味関心につなげるように促した。2つ目は、授業で学んだトピックや関連事項について更に調査してまとめるといったものであった。次回の授業で共有することを前提に書くように指示した。興味関心は学生によって異なるので、レポートを共有することにより、知識の幅、量ともに増やす機会を与えた。また、事前にレポートにまとめておくことで、英語での発信の準備をし、トピック関連事項に関する話合いをスムーズに行えるよう指導した。

3 実践とふりかえり

3.1 コース全体のふりかえり

3.1.1 コース全体を通じて工夫していること

毎授業後に学生にふりかえり作業(レポートもしくはmanaba+Rでのアンケート)を課し、セメスターを通して学生の学習に対する自律性を育て学びを積み重ねていくことを促した。

このコースでは概要にもあるようにアクティブ・ラーニングを推進し、教師は基本的な知識を提供するが学習者とともに学びを深めるファシリテーターに徹した。学生の自発的で積極的な参加態度や発言を引き出すように、ペア、グループ活動をふんだんに取り入れた協同学習およびそれをもとにしたクラス全体での意見交換や発表が中心で、自主的な課外学習(リサーチ、アクション)へとつなげた。

学習者の自主性を軸にしたコースにおいて、多様な学習集団が専門的な内容を学び、かつ英語でのコミュニケーションスキルも高めるには、動機づけとラーニングコミュニティの形成が必要である。これらの要素は、学生が授業内外で能動的な学びを継続させコースの目標を達成するために不可欠だ。

そこで、学生が授業での参加や学びをふりかえり、学習動機やラーニングコミュニティに意識を向けられるように、授業後にレポートや manaba+R のアンケート機能で「ふりかえり」作業を課すこととした。また、学生のふりかえり活動の内容と教師自身の授業後のふりかえりとを合わせて、授業改善の指針とした。ふりかえり活動の詳細については後に示す。

3.1.2 授業スタイル：

ワークショップ、レポートの共有、ディスカッション、プレゼンテーションを多く取り入れた。下記に毎回の授業予定を示す。

Week 1	Introduction: course description, grading policy, etc.	
Week 2	Sustainable Development Goals (SDGs)	
Week 3	Multi Cultures: Getting to know the people and cultures in the world Activity: Photo language, "If the world were a village of 100 people"	
Week 4	Multi Cultures: SDGs & Discussion	paper (1) due
Week 5	Environment: Rainforests and our life	Activity: Photo language, etc.
Week 6	Environment: SDGs & Discussion	paper (2) due
Week 7	Education: Quality education for all	Activity: The Biggest Lesson in the World 2019
Week 8	Education: SDGs & Discussion	paper (4) due
Week 9	Fair trade/ Chocolate (Cacao) Industry	Activity: Photo language, etc.
Week 10	Fair Trade: SDGs & Discussion	paper (5) due
Week 11	Group Presentation (Workshop) Preparation/ Explaining the procedure of group presentation (workshop)	paper (3): special HW (Interview to companies about palm oil) due
Week 12	Group Presentation (Workshop) Preparation	
Week 13	Special talk by a guest speaker from Rwanda	
Week 14	Workshops by student groups (1)	
Week 15	Workshops by student groups (2)	

図1 毎回の授業予定 (コースシラバスより)

1. (1週目) 主に4つの大きなトピック (多文化理解、環境、教育、フェアトレード) を扱い、2週に渡って各トピックに取り組んだ。1週目はワークショップ形式の参加型の授業で、社会問題を紹介する際、クイズ、フォトランゲージ (写真についての話し合い)、シミュレーション (疑似体験) を使ったペアもしくはグループ活動を課した。協同学習を通じて、学習者自身が能動的に問題の本質に気づき、考えを深めていくことを目指した。またこれらにより言語活動を促した。以下にクイズとフォトランゲージに使用した写真の例を示す。

Palm Oil Quiz

Q1. Which oil is most commonly used in the world? In Japan?
1. rapeseed oil 2. soybean oil 3. coconut oil 4. palm oil

Q2. From which country does Japan import palm oil the most?
1. Indonesia 2. the Philippines 3. Taiwan 4. Malaysia

Q3. Which is the most common use of palm oil imported to Japan?
1. margarine, shortening and other processed oils
2. deep frying oil for potato chips, etc.
3. lipstick and other cosmetics
4. soap and detergents
5. plastics and other industrial uses

Q4. Why is palm oil used in so many different types of products?
1. Because oil palms can be harvested all year around for about 24 years after planting.
2. Because the amount of oil harvested per acre is greater than soybean oil or rapeseed oil.
3. Because it has no taste or smell, making it easy to use in processed foods.
4. Because palm oil is cheaper than other vegetable oils.

図2 パーム油クイズ（開発教育協会作成教材を著者が英訳）



図3 皆伐された森（サラワク）出所：(C) 峠隆一 / 開発教育協会

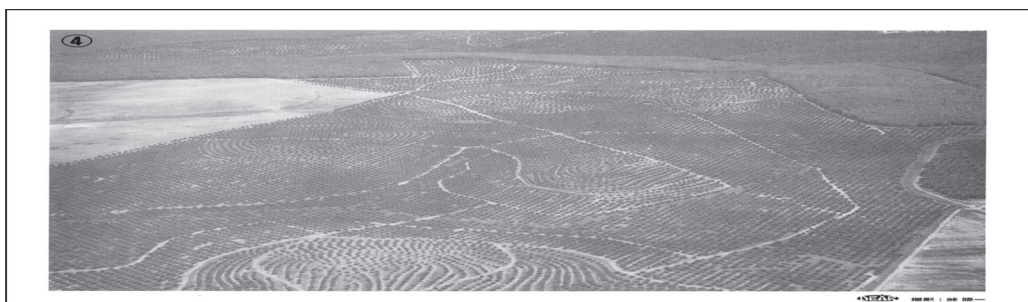


図4 プランテーション開発（サラワク）出所：(C) 峠隆一 / 開発教育協会

2. (宿題) 1週目の授業後、宿題として、授業のふりかえりや各自の興味に応じてトピック関連事項について調べて英語で書くレポートを課した。次週の授業での意見交換などに役立つように促した（2.3「受講生に求める課外学習活動」を参照）。

3. (2週目) 2週目は、レポートの共有やディスカッションを中心としたペアやグループ活動を

進めた。まず、学生は宿題として課されたレポートをペアで共有し、次にパートナーのレポート（要約）をクラス全体に向けて発表した。そして、グループでトピックに関する問題の解決策についてSDGs（持続可能な開発目標）をもとにディスカッションし、SDGsのロゴと意見・提案・質問などを組み合わせたポスターを作成した。最後にクラス全体でポスターを共有しながら、グループの代表がまとめを発表した。

SDGsは議論を深めるきっかけとなり、学生はさまざまな要因が互いに関連し合っていることにも自然に気づけたようだ。また、作成したポスターは学生の考えを視覚化し、整理するのに役立った。発表の際、視覚補助にもなり、発表者、聴衆ともに助けられていた。以下は学生が作成したSDGsポスターの一例である。

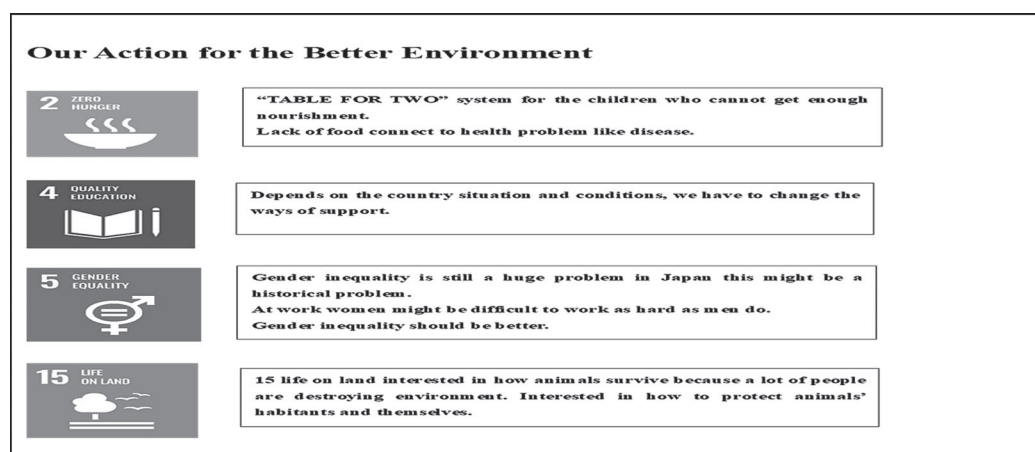


図5 SDGsポスター（2020年度Web授業版）（SDGsロゴ 出所：UN HP）



図6 SDGsポスター（2021年度対面授業版）（SDGsロゴ 出所：UN HP）

4. グループプレゼンテーション

学期末に、各グループでトピック（社会問題）を決め、これまでの授業の進行形態と同様の

ワークショップ形式プレゼンテーションを課した。プレゼンテーションは5つのパート [1) アイスブレイキングアクティビティの実施、2) クイズ形式で社会問題を提示、3) 原因をまとめて発表、4) プレゼンターと聴衆も含めてグループを再編し、それぞれの話し合いのグループに割り当てられたプレゼンターがリードしながら、解決策に向け意見交換し、SDGs ポスターを作成、5) 各グループにいるプレゼンターが、SDGs ポスターをクラス全体で共有しながら、解決策などのまとめを発表] で構成された。このプレゼンテーションにより、学生は独自のリサーチ結果を参加型の活動にのせて発信し、聴衆であるクラスメートとともに議論し、これからの方向性について考えを深めていくという本コースの総まとめを体験したこととなった。

3.1.3 ふりかえり

セメスターを通じ、レポートや manaba+R のアンケート機能を利用してふりかえり作業を課した (2020 年度計 9 回、2021 年度計 9 回)。

「授業スタイル」でも示したように、各トピックに2週の授業時間を費やした。まず、1週目の授業終了後のレポート課題の前半部分に授業の内容をふりかえって感じたことを書くことを求めた。次に2週目の授業時にレポートの内容をペアやグループ内で発表し合い、学びを共有する機会を作った。2週目授業終了後に、manaba+R を利用し、「授業ふりかえり」アンケートを以下の6項目 [1. 授業内容をよく理解できた、2. 英語でたくさん発信できた、3. 相手の話を能動的に聞くことができた (傾聴)、4. トピックについてもっと知りたくなった、5. トピックと自分自身を関連づけることができた、6. 英語の技能を改善しようと思った] について実施した。4段階のスケール [4 (たいへんそう思う)、3 (そう思う)、2 (あまりそう思わない)、1 (全くそう思わない)] から選択し、その理由について記入するよう指示した。

また、特別課題、ゲストスピーカー、グループプレゼンテーションのふりかえり作業を適宜指示し、学期末には「コースふりかえり」アンケートを以下の4項目 [1. 授業への参加度、2. 好きだった点、3. 難しかった点、4. 自分自身の変化について] について実施した。ふりかえりアンケート項目作成に関しては、「3.1.1 コース全体を通じて工夫していること」でも述べたように授業内容の理解の確認に加えて、受講生の到達目標達成のため、学生が授業内外で継続的に学べるように、内容関連事項や英語技能の学習への動機づけ、ラーニングコミュニティの形成、アクティブ・ラーニングの推進を図ることなどを勘案した。以下は「授業ふりかえり」アンケート及び「コースふりかえり」アンケートである。

Let's reflect on the classes in week 5 & 6
 Topic: Environment: Food Packages (Checking Ingredients)/ Palm Oil Quiz/ Photo Language (Rainforests and Palm Oil)/ Sharing a Paper/ SDGs & Discussion

1. I was able to understand the content very well.
 4 Strongly agree 3 Agree 2 Disagree 1 Strongly disagree
 Reasons:

2. I was able to speak up in English very much.
 4 Strongly agree 3 Agree 2 Disagree 1 Strongly disagree
 Reasons:

3. I was able to listen to my classmates actively (with respectful attitude by showing interest, nodding, making gestures, etc.).
 4 Strongly agree 3 Agree 2 Disagree 1 Strongly disagree
 Reasons:

4. I was motivated to learn more about the topic.
 4 Strongly agree 3 Agree 2 Disagree 1 Strongly disagree
 Reasons:

5. I was able to connect the issue with my daily life through the classes.
 4 Strongly agree 3 Agree 2 Disagree 1 Strongly disagree
 Reasons:

6. I was motivated to improve English skills more.
 4 Strongly agree 3 Agree 2 Disagree 1 Strongly disagree
 Reasons:

図 7 授業ふりかえりアンケート (学生用)

1. The style of this class is active learning which means you learn by doing something actively.
 Overall, were you able to participate in the class activities enough? Please rate your participation in the following scale.
 (most) 4 3 2 1 (least)

(Comment)

2. What did you like about the course? You could mention specific activities/assignments or the way class was taught. (コース全体を振り返って、好きだった点は何ですか。具体的なアクティビティ・課題、授業の進め方など)

3. What was difficult about the course? (難しいと感じた事は何ですか。)
 (a) During the class (except presentation) (授業中に関して—プレゼンテーション以外で) :
 (b) Homework (except presentation) (課題に関して—プレゼンテーション以外で) :

4. What is the most significant change about your way of thinking, life style, communication skills or anything through learning in this course? Please write about it. [あなたの考え方、生活習慣、コミュニケーションスキルなど何についてもよいので、このコースでの学習(内容・スタイル)を通してもたらされた最も意義深い変化は何ですか。その変化について具体的に書いて下さい。]

図 8 コースふりかえりアンケート (学生用)

3.1.4 ふりかえりアンケート結果

1. 「授業ふりかえり」アンケートまとめ (学生)

コースの趣旨をよく理解した上で受講を選択した学生集団であるせいか、学年や専攻の違いによるアンケート結果の差異は特に認められなかった。以下に各項目に対する4段階のスケール[4(たいへんそう思う)、3(そう思う)、2(あまりそう思わない)、1(全くそう思わない)]の平均とその理由を示す。

Web 授業 (2020)

項目1「授業の内容をよく理解できた」に対する4段階のスケールでの回答は4と3が多数で、「毎週の授業内容はとてもわかりやすく理解できている」という意見が多かった。項目2「英語でたくさん発信できた」に対する回答は3が多数で、主な理由は「英語での発話は難しいが自分の意見は言える」だった。項目3「相手の話を能動的に聞くことができた(傾聴)」に対する回答は4が多数で「うなずいたり、相づちを打って、積極的に聞いた」という意見があった。一方で、「リスニングのスキルが弱いので、相手の言うことをあまり理解できなかった」(4段階スケール)

ルの回答は2) という意見もあった。この回答から能動的に聞くことすなわち傾聴の意図が十分に伝わっていなかったと推察される。項目4「トピックについてもっと知りたくなった」に対する回答は4が多数で、主な理由は「トピックについてよく知らなかったが、授業を受けて興味を沸いた」、項目5「トピックと自分自身を関連づけることができた」に対する回答は3が多数で、「機会があればフェアトレード製品を購入したい」といった理由が多かった。項目6「英語の技能を改善しようと思った」に対する回答は4と3が多数で、その理由として「英語でもっと活発に議論できるように語彙力を高めたい」をあげる学生が多く、強い学習意欲がうかがわれた。一方で、レポート等で準備することにより発言はできるが、活発な議論のための語彙力の不足が明らかになった。

ほぼ対面授業（2021）

項目1「授業の内容をよく理解できた」に対する回答は4が多数で、理由は「授業内容はよく理解できている」、項目2「英語でたくさん発信できた」に対する回答は4と3が多数で、「クラスメートと意見交換するのは、とても楽しい」という意見があった。一方で、「ディスカッションの時に単語がわからず、質問に答えることができなかった」（4段階スケールの回答は2）という意見もあった。項目3「相手の話を能動的に聞くことができた（傾聴）」に対する回答は4が多く、「相手の話を一生懸命聞いた」という理由が多かった。傾聴がしっかりと理解されていたようだ。項目4「トピックについてもっと知りたくなった」に対する回答も4が多数で、「自分の知らないことが、たくさん世の中で起きていることが、この授業でわかったので、もっと調べて学びたい」という積極的な意見が多かった。項目5「トピックと自分自身を関連づけることができた」に対する回答は3が多数で、「今まで自分とは関係ないと思っていたことも実は関係があるということがわかって驚いた」という意見があった。関連の可能性について初めて気づいた学生が多かったようだ。項目6「英語の技能を改善しようと思った」に対する回答は4と3が多数で、「発表の時少し手間取ったが、クラスメートが助けてくれてなんとかできた」という意見があった。ラーニングコミュニティが着実に形成されている様子がうかがえた。また、「レポートを何度も時間をかけて書き直したおかげか、自分の意見をスムーズに言えた」というように準備の大切さを認識した意見もあった。そして、2020年度と同様に「今後は、準備がしっかりできるよう語彙を増やしたい」という声もあり、やはり語彙力のサポートが必要であることがわかった。

2. 「コースふりかえり」アンケートまとめ（学生）

Web 授業（2020）

肯定的な意見が多数であったが、発信が思うようにいかず、もどかしく感じていた学生もいたようだ。学生の主な意見は以下の通りである。

（肯定的な意見） 自分なりに考えたりして、たくさんの事を学ぶことが出来た / 異なる学部や学年の人たち、特に先輩の熱意に触れ、学習動機が高まった / 特に話し合いに積極的に参加した / ディスカッションでは最低自分の意見を言うことができた / 発言をがんばったと同時に傾聴もがんばった / 宿題のレポートの難易度や量も適当だった / ペーパーへのコメントがう

れしかった

(否定的な意見) もっと活発に話したかった / 積極的な発言が難しかった

ほぼ対面授業 (2021)

クラスメートとの協同学習を肯定的にとらえ、ラーニングコミュニティがもたらす学習効果を反映した意見があった。同時に、英語力について意見の発信のみならず、次のステップを目指す声も多く聞かれた。

(肯定的な意見) 概ね活発に授業に参加することができた / トピックやフォトランゲージが好きだった / リサーチ、グループワーク、SDGs ポスター作りはすべて楽しくアクティブに学ぶことができた / 積極的に授業に参加することで、SDGs への理解や英語力が改善された / クラスメートは皆な親切でなんとか英語でコミュニケーションを取ることができた / ディスカッションや SDGs ポスター作りは、クラスメートと意見を共有できてよかった / クラスメートと協力して助け合って学んだ / ペーパーはディスカッションに役立った / ペーパーは難しかったが、毎回フィードバックがあって、励みになった

(否定的な意見) 英語でコミュニケーションを取るのが難しかった / リサーチしてレポートを書くのがたいへんだった / 自分の意見を話すことはなんとかできたが、話し合いを進行したり、まとめたりすることはできなかった

Most Significant Change (MSC) (このコースを通して自分に起きた最も意義深い変化) (2021 年度のみ) 2020 年度に「ふりかえり」の重要性を認識してから、個人的に各種セミナーも受講し、さまざまな方法を学んだ。そのうちのひとつである MSC の用法 (一定の期間の出来事を通して自分に起きた最も意義深い変化を思い出しふりかえる方法) を活用した (参加型評価センター)。学生の主な意見は以下の通りである。授業を通して学んで欲しいことが多少なりとも伝わったようだ。

特に、アクティブ・リスニングスキル (傾聴) は大事だと思うようになった / クラスメートとのディスカッションは、シリアスな問題や解決策について楽しく考えることができる方法だと気づいた / SDGs に関してアクションを取りたくなった / このコースで学んだ事柄と自分の日常生活の関連性について考えるようになった / 買い物時、食品表示を見るようになった / 社会問題の記事を読んだり、活動家のスピーチを聞くようになった / 環境問題を気にするようになった

3. 授業およびコースふりかえり (教師)

教師も Educational Supporter (ES) の学生と毎授業後、ふりかえり (観察と検討) を「授業ノート」に記入した。「授業案」をあらかじめ書いたノートに「教師によるふりかえり」「学生によるふりかえり (レポート編とアンケート編)」のまとめを書いた。後から読み返すことができ、リアルタイムの記憶が蘇ってくる。時間が経過後、同じコースの授業準備と授業改善をする際にも役に立つ。以下に「授業ノート」の一部を示す。

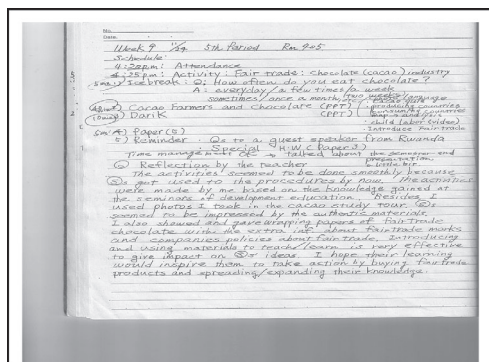


図9 授業ノート (教師用-1)

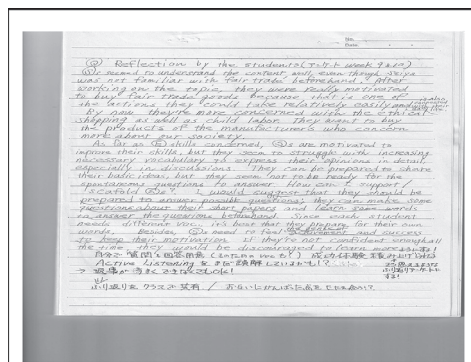


図10 授業ノート (教師用-2)

このコースの3つの到達目標は、学生が居心地のよい学習環境の中で学習意欲を高め、能動的に授業に参加することによって達成が促進される。ふりかえり作業は学生にそれを再認識させることを期待するものだが、ふりかえりの内容から達成度を探ることができる。以下に到達目標の達成度についてふりかえる。

2020年度は、「到達目標：1. クリティカルリテラシー（相手の主張を理解し、それに対する自分の意見を持ち、意思伝達できる力）を獲得することができる」は、概ね達成できたようだ。学期末の「コースふりかえり」アンケートによると相対的に授業中のさまざまな活動への参加度が高く、活発に討論を楽しんでいた学生が多かった。一方で、「もっと活発に話したかった」「積極的な発言が難しかった」という声もあり、特に改善の必要性があると感じたのは、「到達目標：3. 持続可能な社会のために自分が取べき行動について議論できる」についてである。まず、英語が苦手な（苦手意識が強い）学生にもっと自信を持たせる必要があると痛感した。2021年度は、積極的にほめることや各学生への声かけ、レポートに励ましのコメントを書くこと、ESと受講生とのかかわり方の再検討を改善目標とした。更に傾聴もりっばなコミュニケーションの手段であると認識させることも重要だ。発言のみならず、相手を尊重した能動的な態度で聞くことにより意思伝達は促進され、相手に自信を持たせることもできる。レポート共有や討論の際、傾聴をもっと強調したい。最後に、世界で起きている問題が自分とつながっていることをもっと強く認識させ、国際協力で自分にできることをより深く考えさせたい。机上論に終始せず、身近な事に着目させ、消費者として責任ある行動を促すなど予想以上にできることはあると考える。海外で実際に国際協力に携わっている方をオンラインでゲストに招き、学んだ事柄が現実とつながっていると実感させることも有益であると思う。

「到達目標：2. 持続可能な社会のためにグローバルな視野を持つことができる」に関しては、到達度を判断することが困難だと感じた。そもそも「グローバルな視野」の定義は何なのだろうか。2020年度に新任教員対象FDセミナー受講後、到達目標と成績評価方法は連動しているが授業をふりかえて再考した結果、表現が抽象的すぎて評価基準も曖昧であることに改めて気づかされた。本コースは、さまざまな協同学習をともなうコミュニケーション活動への参加度、リサーチ、レポートおよびその発表で学生を評価する。到達目標1のクリティカルリテラシーの獲得や目標3の自分が取べき行動についての議論の状況については、授業中の学生の様子やレ

ポートから評価判断することは可能である。しかし、定義も曖昧な「グローバルな視野」を学生がどのように養っていくかを評価して数値化するのとはとても難しい。よって、より具体的でわかりやすく評価にも直結するように 2021 年度は到達目標 2 を「持続可能な社会のために授業で紹介する事象や関連事項について調査し、まとめ、自分の意見を交えて発表することができる」に変更することにした。変更後は目標や評価基準が明確になり、学生の学びを具体的に後押しできるようになった。

さらに到達目標の達成サポートも踏まえて自分の授業をふりかえる際、「授業ノート」の活用とともに「ふりかえり項目」（ふりかえりカード、開発教育協会）に着目することにした。2020 年度秋学期に本コースを教えながら自身の「授業ふりかえり項目」を作成し、2021 年度に本格的に活用した。

授業ふりかえり項目

1. 学生に問題点と自身を結びつけられるような問いかけができたか。
2. 議論を深める問いかけができたか。質問を喚起できたか。
3. 問いかけの意味は明確だったか。
4. 問題に取り組むアクションについて考えるきっかけを与えたか。
5. 傾聴を促したか。
6. すべての学生に注意を払えたか。
7. 学生の発言の機会が均等になるように努力したか。
8. 参加が少ない学生に参加を促す行動がとれたか。
(声かけをする。緊張をほぐす言葉をかける。安心して発言できる雰囲気を作る。)

2020 年度の反省を受け、2021 年度では「授業ふりかえり項目」に着目して授業進行を心がけた。特に「傾聴」を促すことを心がけ、そのかきがあつたか、素晴らしいラーニングコミュニティが形成され、クラスメートと助け合いながら努力する様子が授業中やコースふりかえりアンケートよりうかがわれた。また、社会問題と自分の日常生活を関連づけられるようになったというコメントもあった（到達目標 3）。発信を助けるツールとして宿題として課したレポートを積極的に活用するように示唆したところ、前もって発言内容を準備する学生が増え、発信がよりスムーズになった場面が見られた（到達目標 2）。しかし、「自分の意見を話すことはなんとかできたが、話し合いを進行したり、まとめたりすることはできなかった」というコメントもあり、ディスカッションを包括的に進行するためのスキル指導も必要で今後の授業に取り入れたい。

3.2. 焦点を絞り込んだふりかえり

2020 年度は Web 授業、2021 年度はほぼ対面授業と 2 つの授業形態を経験した。ここで授業形態の違いに焦点をあてて授業をふりかえる。

3.2.1 Web と対面の 2 つの授業形態の比較（2021 年度の学生の声）

対面授業でのリアルな交流を望む声が多数であった。学生の主な意見は以下の通りである。

対面の授業では、リアルな交流でコミュニケーションがより活発になる /Active Listening（傾聴）を実行しやすい /グループ活動で、誰が発言したがつているか察することができるばかりか、発言時に困っていたら、助け舟を出すことも可能（空気感） /授業の前後に雑談できる /クラスメートとより仲良くなれる（仲間意識が強くなる） /Web 授業では、PC 操作でロスタイムが生じる

3.2.2 Web と対面の 2 つの授業形態の比較（教師の立場から）

Web 授業となり、当初は戸惑いや困難な事も多々あったが、よかった点もある。社会情勢にかかわらず、さまざまな授業形態や方法を活用することは、授業の幅や可能性を広げる。気づいた主な点は以下の通りである。

・ Web 授業で困難だった点

1. 学生をモニターするのが困難：各学生の細かい様子を把握できないので、臨機応変に個別に学習サポートができなかった。
2. 進行に時間がかかる：手順の説明をより丁寧にかつ詳細を指示しないとわかりにくいので、事前準備や授業中にもより多くの時間がかかった。その結果、実施する活動を変更した。
3. 活動内容の制限を余儀なくされる：SDGs ポスターの形式を変更したり、高度なコンピュータースキルを要求されるので、結果として教師の介入が増加した。
4. ディスカッションの時間増加：英語の習熟度が低い学生にとっては負担増となったようだ。

・ Web 授業で取り入れてよかった点

1. ペアでのレポート共有時間の増加：周囲を気にせず、じっくりと話合えたようだ。
2. Active Listening（傾聴）の強化：学生の自信や学習の動機づけにつながった。
3. 海外からゲストスピーカー招聘：Web だからこそ実現した。

3.2.3 Web（2020）から対面授業（2021）を経ての教師の気づき：対面に Web で工夫したことを取り入れる

Web 授業で求められた新たな授業運営で好評だったものは、対面授業に戻っても取り入れた。以下に主な 2 点について述べる。まず、Web 授業では、対面授業時より丁寧にかつ詳細に指示を出すことが求められた。対面に戻ってもそれを実行したところ、指示や内容が伝わりやすくなり、授業の進行がよりスムーズになった。次に、Web 授業では、活動内容に制限があり、対面時よりディスカッションが増加傾向にあった。そのことは、英語の習熟度が低い学生には負担増ではあったが、好評でもあった。傾聴を促したことが功を奏して、習熟度にかかわらず会話を楽しんだようだ。よって、対面に戻ってもディスカッションの機会を多くしたところ、インタラクションが増え、益々学生同士の仲がよくなり居心地のよいラーニングコミュニティ形成に役立った。このように Web 授業を経験しなければ気づかなかったこともある。先にも述べたが、授業の幅や可能性を広げるために今後も多様な授業形態や方法に取り組んでいきたい。

4 今後の展望

4.1 今後の授業でのさらなる工夫

2020 年度、2021 年度の取り組みをふりかえって、授業形態にかかわらず、内容理解と言語活動促進のために今後は以下のことを心がけて授業を行いたい。これらの事項は基本的なことばか

りであるが、置き去りにされがちである。初心にかえて実践したい。

1. アクティビティを **step by step** で丁寧に説明する (段階的な指導)
2. 易しい質問をたくさんする -> **学生は自分のレベルで返答**
3. ペア及びグループ活動と傾聴を推奨 -> **affective filter** を下げる (不安要素を軽減)
4. すべての学生が発表する場面を作る -> **accountability** (各学習者に責任を与える)
5. 発表の際、十分な準備時間を与える
6. 注意深くモニターし、適宜サポートする
7. 活動をパターン化する -> **routine**
8. **学習者の自律性を高める** -> **learner autonomy** (教師はファシリテーター)
9. じっくり取り組めるので、ふりかえりは Web で実施する (但し、共有する工夫要)

4.2 他の実践での応用可能性

本コースは多様な背景の学生が主体となって能動的に小集団で専門知識を外国語で学ぶという特性を持っているが、ふりかえり作業はどのようなクラスでも応用可能だと考える。特に「授業ふりかえり項目」は、授業者自身の状況に応じて考案し、即実施することができる。項目を整理しておく、無計画にふりかえるよりも焦点が絞れ、省察がしやすく続けやすい。また、一旦作成しても、いつでも追加変更が可能だ。項目をしぼって学生への授業アンケートに活用することもできる。

「授業ノート」も大いに役立つ。形式は、自由形式でよいのでとにかく書きとめておくことが肝要かと経験から痛感している。頭では記憶しているつもりでも、残念ながらやはり時間の経過とともに特に細かいことは忘れていく。実践レポートでふりかえりをまとめたこのコースは、実は 2017 年度開始ですでに 5 年が経過した。初年度は授業ノートにいろいろと書きとめていたが、2 年目以降はおろそかになってしまった。当初は、そのうちにまとめて書きとめようと考えていたが、結局できなかった。こうであらねばならないと固く考えるのではなく、メモ程度でもよいのでとにかく書きとめるということが重要だ。

4.3 課題の残った点

「ふりかえり作業」は今後も継続していく予定だが、やはり個人で活動していると限界を感じることがある。学生への授業アンケート内容や自身の授業ふりかえり項目を更新する際に、もっと他にも勘案事項があるのではと常に自問自答している。もし可能であれば、FD セミナー等で、各教員のふりかえり項目を作成の過程も含めて共有することを提案したい。さまざまな場面でのふりかえり項目の学び合いは固定概念を取り除き、授業者としての視野を広めるばかりでなく、多様な学生を理解しサポートすることにもつながると考える。

また、「ふりかえり作業」を学生同士で共有する機会をもっと増やす必要があると考えている。manaba+R のアンケート機能の活用は、時間の制約を受けず、じっくりとふりかえりに取り組むことができる利点がある。しかし、個人作業となるため、より深く内省することは難しい。加えて、アンケート方式にありがちな一方通行となり、ふりかえり項目内容の趣旨を誤解するケースもある。できれば授業中に時間を取り共有させたい。その際、受講生同士でがんばりを讃え合うような機会も提供できるように授業運営を改善したい。

4.4 おわりに

ふりかえり作業により、自身の授業について深く省察し、多くのことに気づくことができた。2020年度新任教員対象FDセミナーでご指導いただき、初心にかえる機会に恵まれたことを本当に幸運に思う。2年間のしかもWebと対面授業というこれまでに経験したことのない取り組みをふりかえり書き記したノートは、生涯の宝物となることは間違いない。今後もこの取り組みを続け、「ふりかえり」をふりかえりながら、教育活動に励みたい。

謝辞

2020年度新任教員対象FDセミナーでご指導いただいた先生方、またこの実践レポートを執筆するにあたり、心温まるアドバイスを下さった教育開発推進機構の鳥居朋子先生はじめ諸先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

参考文献

開発教育協会 『パーム油のはなし～「地球にやさしい」ってなんだろう?』 開発教育協会、2018年

Development Education through Active Learning: Learning by Reflection

KOBAYASHI, Kahori (Institute for Language Education and Research, Lecturer)

Abstract

This is a practical report concerning how reflections on the classes would help improve teaching methodology, learner motivation and a community building in the classroom. The course, “Development Education through Active Learning” is one of Liberal Arts Seminars taught entirely in English open to all the students at Ritsumeikan University. The report is based on the reflections on the two classes conducted online in 2020 and both online and in person in 2021. The students reflected on the classes in their papers and at questionnaires on manaba+R. The teacher made reflection cards and wrote down her thoughts and ideas in her class notebook. The report describes the summary of the reflections to evaluate students’ achievement of the course objectives and discusses the variety of teaching styles to better support the students.

Keywords

Reflection, Motivation, Learning Community, Active Learning, Collaborative Learning